

2014年度(平成26年度)

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目次

2014 KEEP REVIEW	2
<hr/>	
公益Ⅰ.環境教育事業	3
1.やまねミュージアム＝環境研究所	
2.フォレスターズスクール	
3.八ヶ岳環境と文化のむら	
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター	
4.環境省・日光国立公園	
那須平成の森・那須高原ビジターセンター	
5.環境研究所	
6.地域との環境教育事業	
公益Ⅱ.酪農事業	7
・キープ農場	
公益Ⅲ.研修交流事業	9
1.清泉寮	
2.自然学校	
3.ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ.国際地域事業	11
公益Ⅴ.保育事業	15
・清里聖ヨハネ保育園	
<hr/>	
収益Ⅰ.製販事業	16
収益Ⅱ.ホテル事業	19
<hr/>	
企画部	20
キープ協会の環境への取り組みについて	21

2014年度 KEEP REVIEW

2014年6月の役員改選において理事会の顔ぶれがほぼ一新され、新たな理事長として浅田豊久が選任された。

「清里聖ヨハネ保育園・新園舎建設事業」においては、木の温もりに包まれた「森のほいくえん」新園舎が、予定通り2015年3月に竣工落成した。新園舎建設にあたっての募金活動の締めくくりとして、2015年10月までの募金期間内での3,000万円の目標額達成を目指している。

KEEP for the Future 2013(キープ新5か年中長期計画)においては、その第2年目として、2014年度の事業計画に基づき事業を展開した。

決算状況については、決算報告にある通り、数字的にはほぼ当初の収支予算通りの実績結果になった。すでに新年度からの財政再建目標への真剣な取り組みを始めている。

公益財団法人として満3年を迎えたキープ協会の2014年度の REVIEW は以下の通りである。

1. 地域社会との連携

地域連携を「ルーティンの連携」と「政策的連携」に区別し、地域社会と共存共栄できる在り方を模索したが、理事長の交代により、収益面も含めて総合的に判断するなど、見直しを行っている。

2. 牛乳加工販売複合施設の検討

6次産業に対する行政の支援をにらみ、酪農事業と製販事業の一体化を図れる部分を統合したプロジェクトの可能性について検討を始めている。

3. 教育機能の強化および環境保全型運営計画の策定と職員教育

KEEP for the Future の計画に沿って、環境教育事業の充実と敷地(キャンパス)の整備にあたった。また、新入職員をはじめ、若手職員・課長主任クラス・部長クラスの職員研修を行った。引き続き、職員研修のキャリアラム化を進めていく。

4. FD(募金)活動の継続

Friends of KEEP の会員獲得活動の推進とともに、メールマガジンの配信など会員とのコミュニケーション活動を行った。

5. 清里聖ヨハネ保育園・新園舎建設事業の完成

平成25年度の国庫および北杜市補助事業として建設事業を行い、2015年3月27日に竣工落成式、4月26日にお披露目会を開催した。新年度からは70名の園児を受け入れ、保育を行っている。

6. 将来的な清泉寮新別館建て替え計画の検討

清泉寮本館(旧館)客室・アンデレハウス・ハンターホール・別館客室の維持・修繕計画を検討し、資金面と合わせてその方向性について引き続き検討を続けている。



公益財団法人キープ協会

理事長 浅田 豊久

公益 I . 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、環境教育事業を展開した。

1. やまねミュージアム

(1) やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、研究成果を活かした環境教育・環境保全策の普及

(2) 2014 年度の重点目標

ヤマネ研究成果の総括（論文等）と展示への活用ならびに社会貢献への応用

(3) 2014 年度の事業実績

①研究成果を活かした環境教育プログラムの研究開発と実践

②ヤマネ保護と環境保全の提案に向けた研究の推進

③総合的なヤマネ研究の推進とヤマネ国際学会での発表（デンマーク）

④調査受託

⑤「やまねミュージアム」の管理運営

⑥樹上性動物保護の具体策「アニマルパスウェイ(AP)」の普及（AP 研究会構成員として）

1:「環境省 グッドライフアワード 2015」環境大臣賞 優秀賞受賞

2:「第 24 回地球環境大賞」特別賞受賞（フジサンケイグループより）

3:「平成 26 年度 日本自然保護大賞」入選（日本自然保護協会より）

4:「生物多様性アクション大賞 2014」入賞（国連生物多様性の 10 年日本委員会より）

5:第 14 回「野生生物と交通」研究発表会の共催（札幌）と論文作成（共著）

6:第 9 回国際ヤマネ学会での発表（デンマーク）

(4) 開館日数、入館者等の実績

表 1 : 2014 年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2014 年度	2013 年度	増減／昨年比
年間開館日数	289	280	+9（※時間限定 臨時開館含む）
入館者数	17,654	19,714	-2,060／89.5%
1 日平均入館者数	61.0	70.4	-9.4／86.6%
利用団体数	47	67	-20／70.1%
団体利用者数	2,678	3,644	-966／73.4%

(5) 新やまねミュージアム建設の検討を行った

2. フォレスターズスクール

(1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割

環境教育プログラムの提供（主催事業・受託事業）、
環境教育プログラムの研究・開発、
環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2014年度の重点目標

総合的な環境教育の推進と環境教育実践の整理及び教材化

(3) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。（表2参照）

表2：2014年主催事業の実績

	2014年度		2013年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	14	370	17	417
日帰り型環境教育プログラム	7	151	18	488
立ち寄り型環境教育プログラム	-	-	12	631

(4) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから多様な事業を受託した。（表3参照）

表3：2014年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里での プログラム	学校関係	立教池袋中学校、聖心女子学院初等科、各種私立公立学校、立教大学・大学院、明星大学、都留文科大学、ハリウッド美容専門学校、高崎看護専門学校
	行政関係	林野庁、山梨県、北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、神社本庁、聖路加国際病院、日清製粉
出張 プログラム	行政関係	栃木県、環境省、林野庁、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合、青少年教育振興機構、北杜市、青年海外協力協会、神奈川県青少年センター
	一般	中部電力、サントリーグループ、電源開発、伊豆半島ジオパーク
合計	275 事業	

(5) 指導教育

職員や新職員のスキルアップのための研修を行った。また、事業部として3人の実習生を迎え、関係団体から2名の研修生を受入れた。さらに、複数の大学からインターン生を受け入れた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

(指定管理事業)

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献した。

(2) 2014年度のテーマ＝地域

(3) 2014年度の事業実績

プログラムの開発と実践、施設内外での展示、年度テーマに即した事業の実施、自然資料収集のための調査、教材開発、地域の拠点施設としての活動、周辺の文化施設、地域にあるネットワークとの連携、自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理

(4) 開館日数、入館者等の実績

表4：2014年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2014年度	2013年度	増減／昨年比
年間開館日	318	320	△2
入館者数	112,914	87,230	+25,684／129%
開館（1994.11）以来の 総入館者数	1,794,195	1,681,281	
1日平均入館者数	355	272	+83／131%
利用団体数	319	293	+26／109%
団体利用者数	17,827	15,846	+1,981／113%
プログラム回数・参加者数	315／7,011	293／10,643	+22／△3,632

4. 環境省 日光国立公園

(1) 事業実績

①全体

第2期（仮称）の1年目の業務実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）の実施

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育指導者養成事業の実施、屋内外の展示制作、公園の環境管理、「那須平成の森基金」の事務局運営

③那須高原ビジターセンター

ビジターセンター運営、那須甲子地域との連携事業

(2)開館日数、入館者等の実績

表5：2014年度那須平成の森・那須高原ビジターセンターの実績

	2014年度	2013年度	増減
●那須平成の森			
年間開館日	348	345	+3
入館者数	67,197	80,268	△13,071
(内、立寄り団体利用者数)	14,460	19,939	△5,479
(公募)個人利用者向け利用者負担プログラム参加者数(※)	1,663(295回)	1,980(293回)	△317(+2)
(※)=ガイドウォーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、森林管理(モリタシグ)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数	5,255(948回)	5,795(898回)	△540(+50)
(受託)団体利用者向け利用者負担プログラム参加者数	1,767(57団体)	2,272(57団体)	△505(増減なし)
●那須高原ビジターセンター			
年間開館日	345	347	△2
入館者数	27,833	25,978	+1,855
(内、立寄り団体利用者数)	9,894	11,091	△1,197

5. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に活動を行った。

(1)環境保全研究

主にやまねミュージアムが担った(詳細は1参照)。

(2)環境教育研究

これまでの環境教育実践を活かして教材化を進め、学会などでの発表を行った。

6. 地域との環境教育事業

(1)地域との環境教育事業

保育事業部・研修交流事業部と協働し「森の学童」プログラムを実施した。

また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。

公益Ⅱ．酪農事業（キープ農場）

1. 牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 115 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。そのうち 50 頭の搾乳を行い、総生産量 170,361kg の牛乳を生産した。その殆ど（162,006kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て、KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全のジャージー牛乳として高く評価されている。また草地管理面積約 72ha（採草地 45ha、放牧地 25ha その他 2ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し、有機 JAS 認定牛乳の生産維持に努力した。

2. 山梨県等との協力

山梨県の酪農経営安定の為、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健衛生所、山梨県改良協会、家畜共済、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力した。

3. 酪農体験・実習生受け入れ・害獣調査

教育農場としての役割を果たすべく、一般の酪農体験のプログラムを提供するとともに、日本大学生物資源科学部（20 名）、麻布大学（4 名）、長野県立農業大学校（1 名）の学生による牧場実習体験を受け入れた。また大型連休・夏休み等の来場者が多い時期に、野外搾乳体験・ヘイライドなどを実施した。

また、筑波大学による近年増加傾向にある鹿の頭数及び獣害（食害等）についての調査に協力し、実態の把握に努めた。

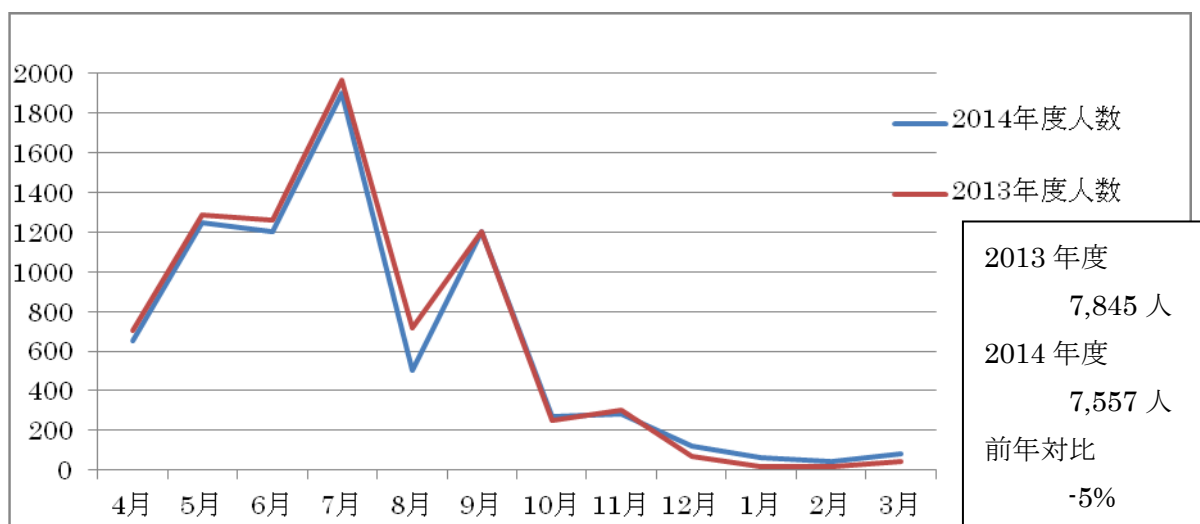
4. 酪農振興補助事業

- ①山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し、酪農環境負荷軽減支援事業を実施した。
- ②山梨県耕作放棄地対策放牧推進助成事業として、山羊・雄仔牛の貸し出しを行った。

5. 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2013年度	2014年度	増減
成牛	69	60	△9
育成牛	35	39	4
哺乳牛	31	24	△7
合計	135	123	△12
内 搾乳頭数	57	51	△6
総生産乳量	190,686kg	170,361kg	△20,325kg

6. 酪農体験プログラム利用者数



公益Ⅲ．研修交流事業

1 清泉寮

清泉寮は、公益財団法人キープ協会の中核施設として、研修施設としての特徴を生かすことで、健全な経営を目指しつつ、他の施設との差別化を図った。

- (1) 宿泊人数は団体利用が増えたことから、2014年度は39,246人泊（前年比553人増）となった。
- (2) 重点事業としての食育に関しては、キープ農場の牛乳を始め、地元生産者との連携による地元の食材の活用および手作りへのこだわり等を重視し、安全安心なメニューを、食材仕入れ価格の高騰の中でもバランスを取りながら、個人・団体を問わず、また宿泊料金のカテゴリーに関わらず、全てのお客様に提供した。
- (3) フロントスタッフによる体験プログラムの実施（参加者数2,338人）、研修団体の受け入れにあたっての企画提案による顧客と一体になった研修プログラムの組み立てなど、寝床と食事の提供にとどまらない滞在時間の提供を図った。

2 キープ自然学校

キープ自然学校は、リーズナブルな料金とバリアフリーに配慮した団体専用宿泊施設としての特徴を生かし、多くの団体の受け入れと主催キャンプの実施に積極的に取り組んだ。

- (1) 幼児を対象とした「森のようちえん」、小中学生を対象とした「やまもりキャンプ」、大人を対象とした「ワークキャンプ」など、幼保教育、青少年教育、食育など、自然学校が力を入れているテーマに沿った計28本の主催キャンプを実施した。
- (2) アレルギー対応にも積極的に対応を図り、安全安心な食事を提供すると共に、梅漬け、干し柿、味噌づくりなど、「食と体験」をテーマにした参加型のキャンプも実施した。
- (3) 養護学校、福祉施設のほか、山梨ダルク（薬物依存者の民間回復施設）との協働作業、病気を持った子供たちの宿泊プログラム、福島在住の親子のキャンプなど、公益の観点に沿った団体の受け入れにも力を入れた。

3 ポール・ラッシュ記念館

ポール・ラッシュ記念館は、公益財団法人キープ協会の原点として、併設される日本アメリカンフットボールの殿堂と共に、集客と、教育・広報機能の両立を図った。

- (1) 「インディアン・アート展」「ポール・スミザー展」などの関連性のある新たな企画展を開催し、集客の実績を上げると共に、ミュージアムの魅力の発信に取り組んだ。
- (2) 新たなパンフレットや看板、清泉寮宿泊者向けのミュージアムパスポートの作成、学校団体向けのワークシートの作成などを行うことにより、認知度の向上と将来の集客への布石を打った。
- (3) 収蔵資料のデジタルデータベース化を開始し、初年度の2014年度は、データベースの構造設計と約1,000点のデータベース化を完了した。

公益Ⅳ． 国際地域事業

■国際地域部

1 フィリピン農山村援助交流事業

1988年開始。ACK とポール・ラッシュの会、キープ日本後援会の後押しを受け、フィリピン聖公会北フィリピン教区(EDNP)と共に、カリंगा州ティンガラヤン(町)ツルガオ(村)を主舞台に、これまで、①コミュニティづくり ②農業 ③保健衛生について、指導者等の人件費を支援すると共に、ハイスクール奨学金、人事交流(地域リーダー等の招聘)等を継続支援してきた。また、簡易水道、多目的建物(アウトリーチステーション)、太陽光発電、植林、小規模水力発電等のプロジェクトを実施してきた。(水力発電をピークに、その後は、奨学金と植林事業のみが継続されていた)

2011年、EDNP ブレント・アラワス主教の提案を受け、ツルガオ単村対象から、周辺のコミュニティを含む地域対象のプロジェクト(TiTuS)に転換。ACK と共に現地調査を実施し、当該事業について、ACK と International Partnership Committee をスタートさせた。TiTuS プロジェクトは、ポール・ラッシュ博士と KEEP に触発された構想で、①食糧増産 ②青少年指導者養成 ③環境保全 ④保健 ⑤教会建築 ⑥地域の調和 からなっている。

2 現地 NGO (CGN) との協働によるフィリピン山岳地帯における農山村の森林再生・森林保全文化形成事業(国土緑化推進機構の補助事業)

この事業は、フィリピン・バギオ市に事務所をおく環境 NGO、Cordillera Green Network (代表者：反町眞理子) との協働事業。平成 18 年からほぼ毎年、国土緑化推進機構の支援(約 150 万円～200 万円、対象は事業費のみ)を得て行ってきた。ここ数年、CGN のノウハウ、指導力等が成熟してきて、単なる植林ではなく、有機森林農法のノウハウを伝授することによりコミュニティの現金収入確保にも効果を発揮している。特に、コーヒーの栽培を奨励しており、収穫物は CGN が買い取り市場に供給するシステムが確立されてきた。

3 CGN による有機栽培コーヒーの消費・販売協力

前項の事業でフィリピン山岳地帯に普及してきた有機栽培コーヒーの消費・販売に協力してきた。キャンプ場の賄材料、キャンプ場、自然学校、製販、清泉寮新館売店での販売で、消費・販売量は年間 100kg 程度。

1 ロット 50kg の生豆を「わかちあいプロジェクト」から購入、白州町のケルンコーヒーで焙煎してもらい、個包装して販売、業務用として消費するという流れ。

4 日比米聖公会三教区青年交流プロジェクト

2011年、ACKのソウルズ会長（米国聖公会C00）の発案、当時の茅野理事長、横浜教区の三鍋主教、EDNPのアラワス主教の合意により始まったプロジェクト。各教区5名程度の若い信徒がチームをつくって、日本、フィリピン、アメリカで奉仕活動を行うというもの。

2013年8月17日～8月30日…日本（東北被災地等）

2014年8月1日～8月16日…フィリピン（北フィリピン教区）

2015年7月31日～8月15日…米国（ナバホランド伝道区）3年間で終了予定

5 海外からの研修生・実習生等の受入れ

(1) ベリアカレッジ(米国ケンタッキー州)4名…5/11～7/18

(2) リール大学(フランス)2名…7/3～8/23

(3) ウェルズリーカレッジ(米国マサチューセッツ州)1名…6/2～8/8

6 NPOピースフィールドジャパンによるイスラエル・パレスチナ・日本の青年平和交流事業「KIZUNA PROJECT」

数年前からNPO法人ピースフィールドジャパンが主催する事業にキープ協会が協力。イスラエル、パレスチナ、日本の女子学生による青年平和交流プログラム。

2014年度は、双方の日程がつかないため受け入れていない。

7 米国ケンタッキー州マディソン郡と北杜市との姉妹地域交流事業

(1) 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業

4月28日(月)～5月7日(水) 10日間、参加13名(団員11名・事務局2名)

(2) 日米文化交流事業(訪問)

5月3日(土)～5月10日(土)8日間

(3) 北杜市中学生米国ケンタッキー州マディソン郡ホームステイ受入事業

7月27日(日)～8月3日(日)8日間12名(中学3年生10名・引率教諭2名)

(4) 米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業

10月14日(火)～10月21日(火) 8日間 17名

(代表団12名・文化交流員1名・クラフト4名)

(5) 日米文化交流事業(受入)

10月20日(月)～10月25日(土) 6日間1名

(6) 子ども絵画交流事業(展示)

5月～10月(米国)・12月～1月(北杜市)

テーマ「私の町」…日米の小学校4年生～6年生・入選者数20名

8 北杜市中学生海外交流事業【受託事業】

北杜市教育委員会からの依頼により 2012 年度から業務委託契約により事業の企画コーディネート、カナダへの引率・同行を行っている。市内の中学校から原則 2 名ずつの参加者を募り、夏休みを利用して、カナダ・アルバータ州クロウズネストを訪問する。

- (1) 準備セミナー 5 回
- (2) 事業コーディネート業務 滞在先宿泊プログラム等手配
- (3) 事業同行・引率 8 月 8 日～15 日 8 日間

訪問先：カナダ・アルバータ州クロウズネストパス

- (4) 報告会・報告書作成
- (5) 企画コーディネート

9 地域の青少年等を対象にした英会話教室、英会話体験プログラム【主催事業】

アメリカ・ベリア大学、ウェルズリー大学、フランス・リール大学など海外からの研修生が持つ国際性を活用し、外国人や活きた英語に気軽に触れられる機会を提供するため、2014 年度より各種英会話体験プログラムを開始した。YASC (Young Adult Service Corps) より派遣されたシャーロット・ファイル氏と協同で、企画・運営を行った。また、環境教育・異文化交流体験と英会話を融合させた独自のプログラムを提供するため、8 月下旬から 11 月上旬までの期間環境 NGO 団体 CGN よりファシリテーターを 2 名招聘し、宿泊型・日帰り型の各種プログラムを行った。

- (1) 北杜市英会話教室 週 2 回

水曜日…上村英司氏(市議) 事務所会議室 子ども 8 人

金曜日…大泉町総合会館 会議室 子ども 4～5 人 / 大人 10 人

- (2) Kiyosato English Camp(宿泊型) 2 回 集客計 20 名

第 1 回 8 月 30～31 日 第 2 回 9 月 6～7 日

- (3) KEEP KIDS CLUB(日帰り) 3 回 集客計 90 名

7 月 3 日 レクリエーションデイ 10 月 4 日 クラフトワークデイ

10 月 11 日 クッキングデイ 11 月 4 日 ハロウィンデイ

■ キャンプ場・その他の事業

1 キャンプ場運営

- (1) 年間宿泊団体利用数…75組（2013年度 65組）
- (2) 利用人数（延べ）…5,793人（2013年度 3,929人）

2 ブライダル

- (1) エージェント ベルベデーレ経由 3件
キャンプ場で式・パーティ・料理・サービス提供。宿泊あり
 - (2) エージェント オズブライダル経由 4件（野外礼拝堂での挙式のみ 3件）
清泉寮が窓口で、通常は野外礼拝堂のみ使用
清泉寮から料理を運んでメインホールでパーティ実施したものが 1件
 - (3) エージェント通さないもの 3件
受付から食事・サービス提供まで、すべてキャンプ場スタッフで実施した
挙式は野外礼拝堂・会場はメインホールで実施
- ※ 挙式だけのものを含め年間 10 件実施（前年比+8 件）

3 オーガニック畑プロジェクト

農業参入企業新部門チャレンジ支援事業に位置づけ実施した。天候不順と鹿の食害により生産が伸びなかったが、ニンニク・ジャガイモ・小麦を収穫した。今後の圃場の生産性改善および最適作物の選定のため、土壌調査を実施し、長期栽培計画のための情報収集を行った。

4 立教大学観光学部インターン受入れ

8月下旬～9月中旬のうち2週間程度。2014年度はKEEP English Camp、KEEP Kids Club にインターンを受け入れた。

公益Ⅴ． 保育事業（清里聖ヨハネ保育園）

「清里聖ヨハネ保育園・新園舎建設事業」において、木の温もりに包まれた「森のほいくえん」新園舎が、予定通り2015年3月に竣工落成した。

キリスト教の精神に基づき、「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行った。また、キープ協会の公益事業の中でも、地域社会とのつながりを深めるキーステーションとして、地域との交流事業にも積極的に取り組んだ。

1. 異年齢保育の継続・推進

- ・ 2014年度は、引き続き職員も縦割りを意識しながら全体での保育を考え行うことができた。
- ・ 3歳未満児と3歳以上児と一緒に活動することもあり、園全体で保育を構成し、それぞれの育ちを確認することが出来た。
- ・ 異年齢児で園舎の建設（柱磨き・御礼のお手紙づくり等）に関わることができた。

2. 自然学校・キープ森のようちえんプロジェクトとの連携

- ・ 森での活動は、園舎の建て替えで積極的に森へ出かけ行く良い機会となり、多くの学びの時となった。
- ・ 園児や職員も生き物の生死に関わることを学び、考える機会を多く持つことができた。
- ・ 森で野草茶や食しても大丈夫な物等、食べることの大切さや楽しさを知る機会も多く持つことが出来た。
- ・ 自然学校の「森のようちえん」プログラムには参加することはできなかった。同じフィールドを共用していく上で、今後連携を持っていく。

3. 安心・安全な食事の提供と実践

- ・ 一ヶ月に一度、食品の放射能検査を行い、保護者の方にも結果をお伝えし安心して食事を頂くことができた。
- ・ 地産地消の部分では、さらに地域の方との交流を深めた上で、生産者が子どもたちと関わり、安心した食事が出るように努めたい。

4. 園内研修による質の向上

- ・ 新制度に向けて（白梅学園学長 汐見稔幸氏・・・2回）
- ・ 森の保育について（小西貴士・黒田あや・・・4回）

収益 I . 製販事業

KEEP for the Future2013 に則った事業展開により、キープ協会の経済的基盤を支えるための収益の確保を図った。

1. 収支動向 (金額：千円)

収入部門	2014 年度	2013 年度	前年比
売店	286,096	306,166	93.4%
ソフトクリーム	142,058	146,665	96.9%
出張販売	21,747	10,676	203.7%
飲食	60,628	57,844	104.8%
合計	510,529	521,351	97.9%

収入に関しては、2014 年度新消費税 8% 導入による消費とくにレジャー関連消費の減少傾向が続いたことと、最盛期 8 月の週末雨天率が高かったことが、マイナス要因として挙げられ、全般的に苦戦を強いられた。

ただし、冬期の集客対策の成果、清泉寮ソフトクリームのテナント出店、および出張販売が好調だったことで、通年では前年比 97.9%、予算比 95.1% という結果に終わった。とくにキープファームショップおよび飲食部門に関しては、前年を上回っており、様々な対策が実を結んでいると考えられる。

支出に関しては、収入に応じた徹底管理により、前年比 97.3%、予算比 94.1% と抑えられている。その結果、最終損益は前年比 99.8%、予算比 98.1% と、ほぼ前年並みを維持できた。

2. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通り。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房・キープファームショップ・清泉寮セレクトショップ、および清泉寮ソフトクリーム ラザウォーク店の計6店舗を運営
- ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開
- 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による 複数店舗利用促進
- 飲食部門に於いては 「人と地球の健康」 をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- キープ農場産の牛肉を使用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- 通販WEBページの改良および更新
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理
- ACKと連携した 海外製品の直輸入
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 可能な限り外注に頼らず 自らの作業で経費を削減
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費を削減
- 収入に応じた支出管理の徹底

3. 出張販売

場所	事業名	期日
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	5/22～5/25
名古屋 丸栄百貨店	うまいもの味めぐり	5/29～6/3
長坂 スポーツ公園	北杜ふるさとまつり	悪天候中止
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	9/4～9/9
青森 さくら野百貨店	ズームイン!! サタデー 全国うまいもの博	9/23～9/30
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/11～10/12
静岡 静岡伊勢丹	ズームイン!! サタデー 全国うまいもの博	10/15～10/20
船橋 東武百貨店	につぼんの味	10/12～10/13
新潟 新潟伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	10/24～10/30
羽村 富士見公園	羽村市産業祭	11/1～11/2
大阪 あべのハルカス近鉄本店	富士山世界文化遺産登録記念 山梨・静岡物産展	11/20～11/26
新宿 京王百貨店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/8～1/20
銀座 松屋銀座	富士山世界文化遺産登録一周年記念 山梨・静岡物産展	1/15～1/19
新宿 高島屋	北陸新幹線開通記念 北陸・上信越 沿線の味めぐり	2/24～3/2
浜松 遠鉄百貨店	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	3/11～3/17

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計（税別）
14 件	19,773 千円	1,885 千円	21,658 千円
前年 16 件	9,699 千円	1,970 千円	11,669 千円
前年比	203.9%	95.7%	185.6%

収益Ⅱ．ホテル事業

清泉寮は、宿泊研修施設を利用して、一般の宿泊客ならびに立寄りのレストラン利用客の受け入れも行った。

- (1) 抜群の景観と自然環境、安全安心な食の提供、良質な温泉施設、気軽に参加できるプログラムや徒歩圏内にある3箇所のミュージアム、といった特徴を生かして、近隣の施設との競合を避ける中で、利用者に癒しと再生の場となるようなサービスと商品の提供を図った。

■企画部

1. 中長期計画の進捗管理業務

- (1) KEEP for the Future 2013 委員会
- (2) 立寄団体客集客ミーティング
- (3) 牛乳加工販売施設検討ミーティング

2. 企画調整・広報業務

(1) 広報事業

多くの人にキープの活動を知ってもらい、事業運営の寄付を募ることを目的に、Friends of KEEP の活動として、情報誌「キープだより」を年間 2 回発行した。

(2) 情報発信

キープ協会を訪れる人たちのマーケティング・リサーチを実施し、滞在時間延長や利用促進のため、施設の最新の情報を掲載した「キープまるごとマップ」を 3 回発行した。またテレビ・雑誌等のメディア対応を行ない PR した。

3. 職員教育訓練業務

(1) 新入職員オリエンテーション

キープ協会の歴史的背景の習得、コミュニケーションを深める内容で実施した。

(2) 階層別研修

組織力向上、業務の品質向上、情報共有術向上、コミュニケーション能力向上につなげるための研修を実施した。

■FD（フレンズ・オブ・キープ事務局）

1. フレンズ・オブ・キープ会員獲得活動

2013 年度に引き続き、フレンズ・オブ・キープの会員獲得活動を継続実施した。この結果、キープ協会維持会員（個人）248 名（+66 名）、法人会員 17 社（+4 社）、清泉寮クラブ会員 333 名（+122 名）となった。

2. 会員とのコミュニケーション活動

- (1) 清泉寮本館ロビーに 2013 年度キープ協会維持会員の芳名パネルを掲出した。
- (2) キープ便りを 4 月と 7 月の 2 回送付した。また、清泉寮のメールマガジン配信にあわせて、会員宛にも清泉寮割引宿泊プランをメールでご案内した。
- (3) ホームページを管理し、各事業部より寄せられる最新情報の発信に努めた。

キープ協会の環境への取り組みについて

1. ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証終了

- (1) 2005年12月の認証取得以来、ISO環境マニュアルに従い、環境に配慮した業務の実施・改善に取り組んできたが、2014年度の途中より、今後の認証継続は行わないが、ISOシステムのノウハウを活かし、自主的に循環型コミュニティの実現と省エネへの取り組みを続けていくことに路線変更した。

2. 環境教育事業の展開

- (1) 環境教育事業部では、清里と那須を拠点に「教育」と「研究」を両輪とした環境教育事業を展開している。
- (2) KFTF（KEEP for the Future・キープ新5か年中長期計画）の中で、キープ協会はすべての事業において「環境」をテーマに、持続可能な社会の実現を目指して事業活動を行っている。

3. 環境保全型運営

- (1) 自然エネルギーの有効利用・ゾーニングに基づく敷地の適正管理・天然記念物ヤマネの総合的な研究の推進・環境教育の推進など、キープ協会全体が環境保全型運営のコミュニティを実践している。

